

(様式2)

4	5	5	0	1
---	---	---	---	---

令和元年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和2年 3月17日
市立札幌清田高等学校

1 本年度の重点目標

1. 生命を守る指導および規範意識を育む生徒指導の推進
2. 自己肯定感・自己有用感を高める特別活動の推進
3. 生涯にわたって学び続けられる力の育成
4. 適正な進路指導の推進
5. 国際理解教育の推進およびグローバルコースの成果の共有
6. 保護者・地域から信頼される学校づくりの推進

2 本年度の経営方針

1. 豊かな人間性を養い、これからの社会をたくましく生き抜く力を育成する。
2. 基礎基本に基づいた確かな学力を育成する。
3. 生徒の進路目標を早期に確立させ、その実現を支援する。
4. 将来の学校像構築のための教育課程編成を行い、学校課題の改善・改革に取り組む。

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
資質保障	・学校は安全な場所として認知されているか ・規範意識をもって学校生活を送ることができているか ・学校生活に積極的に関わっているか	A	・学校がいじめなどの不安がない安心できる場所として認知されている ・悩み等に対する相談体制が校内にできており、生徒に周知されている ・決まりごとに対する意識が高く、生徒たちの規範意識は高い。 ・課外活動について生徒たちは積極的に参加している。 ・学校行事も生徒たちは積極的に参加し、満足度も高い。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・不安がない安心できる場所であることが十分感じられた。 ・生徒は、課外活動にも積極的に参加されている。 ・生徒の積極性を高めるためにも、清田高校の教員がチーム（ビジョン共有、個々の役割設定と鍛錬、個人間の積極的なコミュニケーション、情報共有、問題発見と解決、システムティックに物事を捉える）となり、主体的に行動し、積極的に生徒と関わる必要があるように思う。生徒に期待したり求めたりする前に、教職員組織がしっかりとしたチーム（学習する組織）でなければならない。 ・すでに清田高校の教職員はチームとして機能しているのかもしれないが、清田高校がいじめ等の不安がない安心できる場、生徒が主体的に学ぶことができる場として機能するには、まずは教職員組織がチームとなり、意識的に行動する必要がある。 ・こうした教職員の行動をサポートするのが、校長、副校長、教頭等のトップ・マネジメントの役割。 ・清田高校生徒のマナーについて地域の評価は高く、生徒が規範意識をもって生活				

(様式2)

	<p>していることがわかる。 ただ、保護者の交通マナーについて地域住民から苦言が呈されており、改善が必要とを感じる。</p>				
学力保障	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を育むための授業が行われているか ・生徒の知的探求意欲を高める授業へ取り組んだか ・課題探究的学習の実践研究に取り組めたか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は工夫されており、分かりやすさを意識した内容になっている ・カリキュラムについては過渡期ということもあり、保護者への周知を一層深める必要性が感じられるが、教科・科目の配置については工夫されている。 ・生徒の主体性が学びの中で引き出しきれていない部分はあるものの、生徒自身による取り組み姿勢は良い。主体性が育つ教育課程について今後検討する余地がある。 	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は工夫されており、分かりやすさを意識した内容になっている。 ・カリキュラムも重要かもしれないが、あらゆる場面で「なぜなのか？」を徹底的に問う習慣をつけることが「知的探求」「課題探求」において重要。 ・大学受験を意識した授業では難しいかもしれないが、毎回の授業で「なぜなのか？」をあらゆる授業で問いかけるだけでも探求意欲に変化がみられる学生もでてくるはず。些細な問いかけで学生は変わる。教員は解答を用意する必要はない。できれば、生徒間で議論する時間が取れば良い。 ・問2-(5) 生徒の学校行事に対する達成感が高い一方、教職員は低い。教職員の求めるレベルに生徒が達していないということかと思う。この数値が改善されることを望む。 				
進路保障	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者に対して面談や講習は十分に実施されたか ・進路実現に向けての講習や模擬試験は十分に行われたか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒に対しての面談や講演会が充実しているが、保護者向けの講演会等については今後検討の余地がある。 ・進路対策のための講習や模擬試験は十分に行われている。 	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・進路対策のための工夫がふんだんになされている。 ・北海道内の高校すべてに言えることであるが、「ホームページ」の内容があまりに貧弱かつ硬い。この点は清田高校も同様。だからこそ、もう少し力を入れることが大切。見せ方（雰囲気良く楽しい高校）を工夫してはどうか。そもそも進路の実績の更新は早急に行った方が良い。卒業後の進路実績を示すだけでなく、OB・OGの紹介をしてはどうか？ ・生徒の学力向上に向け、日々努力されたい。 				
改革推進	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育は推進されているか 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・国際理解教育への生徒の関心や意欲が高い。 ・各教科の授業の中で国際理解に十分触れられているとは言えず、工夫の余地がある。 ・学校外に対して清田高校の国際理解教育を周知する必要性を感じる。 	A	A

(様式2)

	・保護者・地域に学校が開かれ、信頼される学校となっているか	A	・学校から外部への発信は十分に行っていると感られるが、保護者に向けては工夫の余地があると感じられる。 ・地域との交流や小中学校との連携はもっと外部へ積極的に周知して活動を広げても良いと考えられる。 ・学校外からいただいた意見を教育活動に還元できていると考えられる。	A	A
学校関係者評価委員による意見	・国際理解教育の推進が十分感じられた。 ・清田高校の「国際教育とは何か」を改めて議論し、関連する教員間で理解・共有する必要があるのではないか（保護者のアンケートに「一部の教員は熱心であるが・・・」というコメントがあったように記憶している）。また、清田高校の国際教育が近隣の他校とどのような点で差別化されているのか、あるいはオリジナリティがあるのか（当然ながら、昨今、国際教育だけでは差別化要因にはならない。）を明らかにし、ホームページ等でしっかりと示すことが重要であるように思う。 ・グローバル教育だけではなく、ローカル（北海道、札幌、清田）教育の充実とホームページ等での周知徹底。ローカル教育についてはすでに積極的に行われているが、グローバル教育（国際交流）に比べて軽視されているように見える。これも見せ方の問題か。ホームページに「地域交流」という項目をつくっても良いかもしれない。 ・地域に清田高校がもっと溶け込めるよう、地域の情報を高校に届けていきたい。				